D U O R E C I T A L

漆原啓子&
KEIKO URUSHIHARA & JAN PANENKA
ヤン・パネンカ

〔曲目〕

ドヴォルザーク：ヴァイオリン・ソナチネ ト長調 作品100
Dvorák : Violin Sonatine G major op. 100

ドヴォルザーク：4つのロマンティックな小品 作品75
Dvorák : 4 Romantic pieces op. 75

ファリャ：スペイン民謡組曲
Falla : Siete canciones populares espafiolas

マスネ：タイスの瞑想曲
Massenet : Meditation from Thais

クライスラー：ロンドンデリーの歌/中国の太鼓/美しきロスマリン
Kreisler : Londonderry air/Chinese Tambourine/Beautiful Rosmarin

グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ 第2番 ト長調 作品13
Grieg : Sonata for Violin and Piano No.2 G major op. 13

日時：平成7年7月7日㈮ 午後7時開演
会場：たんば田園交響ホール
入場料：大人3,000円．学生1,000円《全席自由》
主 催：篠 山 町　　協 賛：兵庫銀行文化振興財団

プレイガイド〔篠山町内〕小山書店・森本書房・木下楽器・サワヤマ楽器〔丹南町〕公民館・リブロ・JA丹波旅行センター・NEWS丹南店総合サービスセンター〔西紀町〕中央公民館〔今田町〕中央公民館
〔三田市〕三田サティ3Fサービスコーナー
〔氷上郡〕春日町文化ホール・柏原観光案内所

お問合わせは
たんば田園交響ホールまで
☎(0795)52-3600

夏の一夜、音と宇宙

啓子、パネンカの響き

三善清達

漆原啓子さんが、久し振りにリサイタルを開く。それもチェコの名ピアニスト、ヤン・パネンカさんとのデュオで、これは楽しみ。

いま日本のヴァイオリン界は真に充実しており、あの人、この人と優れた才能が次々に思い浮かぶが、そのなかでも漆原さんは一際輝く大きな星だ。

私は彼女が中学生で日本音楽コンクールに入賞し、高校生でヴィニアフスキ国際コンクールの第1位を、初の日本人として得られた頃から、ずっと聴き続けているが、そのたびに驚き感動する。とにかく東京芸術大学、つまり大学に入る前に、国際コンクールを制覇してしまったわけで、通常の音楽学生などから見れば、人生観が変わるくらいの経歴だ。しかし端(はた)から見る分には、ご本人は結構ケロリとしていて、決して大騒ぎはしない。大物なのだ。

その啓子さんが、リサイタルや協奏曲のソリストで活躍する一方、1985年からは「ハレー・ストリング・クァルテット」を組み、また二重奏と、室内楽にも喜びを見出し、芸域の幅を広げてきた。そうした意味で、89年のヤン・パネンカ、またチェロのヨーヨー・マとの共演の意味は大きい。特にパネンカとは、ブラームスのヴァイオリン・ソナタ全集を録音、大きな反響を呼んだ。

今回のプロも、ドヴォルザーク(チェコ)に始まり、前記のブラームス(ドイツ)、ファリャ(スペイン)を経て、グリーク(ノルウェー)で結ばれるという、真に大きな地域、民族にわたってのユニークなもの、そして時も少しづつ違う。啓子、パネンカのお二人が、こうした夫々の心と世界を、どう繰り広げてくれるか、またこれらの曲が、お二人によってどんな味と世界を見せてくれるか。

星が瞬き、ハレー彗星も遠くで回る夏の一夜、音と宇宙、弓と弦、そして人間と神の響きが、きっと聞こえてくるに違いない。

漆原啓子

KEIKO URUSHIHARA

1981年、ヴィニアフスキ国際コンクールに於いて、最年少18歳で日本人初の第一位優勝、併せて六つの副賞も獲得する。

82年、東京芸術大学入学と同時に本格的演奏活動を開始。

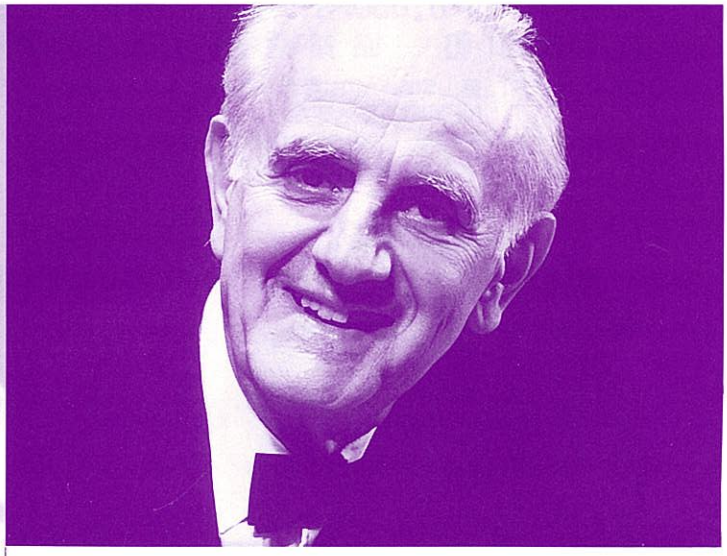
85年には、「プラハの春」国際音楽祭に招かれ、スロヴァキア・フィルとの協演の他、リサイタルを行う。

87年、ドイツ各地への演奏旅行を行い、91年には日本フィルハーモニー交響楽団のヨーロッパ公演のソリストに抜擢され絶賛を博した。

94年、サンクトペテルブルグ交響楽団(A・ドミトリエフ指揮)日本公演のソリストとして、各地で好評を得た。

ソリストとしてのみならず、ヤン・パネンカ、ヨーヨー・マとの共演の他、上村昇、迫昭嘉とのピアノ・トリオ、またハレー・ストリング・クァルテットなどでも活動している。

レコーディングに於いても、ソロ・アルバムは5枚を数え、93年1月のヤン・パネンカの共演を得たブラームスのソナタ集は、「音楽の友」特選盤、「レコード芸術」準推薦盤に選ばれている。現在、オーケストラとの協演、リサイタル、室内楽と各方面に意欲的に活躍中の、最も期待されるヴァイオリニストの一人である。



ヤン・パネンカ

JAN PANENKA

チェコを代表する名ピアニストであるヤン・パネンカは、極めて美しい音、確かな技巧、みずみずしい感受性と、あたたかい人間性に裏打ちされた解釈によって、音楽の持つ本質的な感銘を聴く者に与えてくれる。また天与の才能と人格によって共演する音楽家の真の能力をひき出し、最高の音楽をつくりだす希有のアンサンブル・ピアニストである。

1986年にはスメタナ弦楽四重奏団とともに来演し、『針のように鋭く光るものを内に秘めながら、すこぶるノーブルな音で、アンサンブルの陰になりひなたになりして行く手加減が絶妙で、室内楽の極意をそこに見る思いがする』と絶賛された。

1959年、チェコ・フィルのソリストとして同行初来日して以来、スーク・トリオでも度々来演、ヨゼフ・スーク、ヨゼフ・フッフロとの見事なアンサンブルによって多くの室内楽ファンを魅了してきた。

また日本と日本人音楽家に深い愛着をもち、黒沼ユリ子、景山誠治、漆原啓子、上村昇等とのデュオ、景山、豊嶋泰嗣、田中雅弘、他との五重奏などで積極的に共演し、いずれをも名演に導いた得がたい芸術家である。

現在、プラハ音楽アカデミーのピアノ、室内楽の教授、日本では霧島国際音楽祭、講習会の講師を務めている。

Urushihara Keiko PHOTO 表：Hotta Masami